



掛川モデル防潮堤事業と防災対策

一期目の市長任期がまもなく終わろうとしています。この四年間、市民のみなさまの安全・安心のために、さまざまな政策に取り組み、まいりました。中でも特に印象に残っているのが、掛川市の沿岸10キロで進めている「掛川モデル海岸防災林強化事業」です。

防潮堤の完成が間近に

この事業は、沿岸部に防潮堤を建設するものです。また、併せて海岸防災林強化のため、時ノ寿の森クラブやボランティアと連携し植樹を行っています。現在、進捗率は84%を超え、来年度末には掛川市施工分が当初の予定より2年前倒しで完成する見込みです。

防潮堤の建設には、多大な時間と費用がかかることが課題でしたが、建設に使用する盛土を、国土交通省浜松河川国道事務所、静岡県やスズキ(株)様などからご提供いただくことで、大幅な時間短縮と費用削減を実現することができました。

鈴木修前会長との思い出

特に、昨年末に逝去されたスズキ(株)の鈴木修前会長には、牧之原工場の用地拡張で発生する土砂をご提供いただくようお願いしたところ、快くご承諾いただきました。晩年は筆談での会話となりましたが、常に温かい励ましのお言葉をいただき、感謝の念に堪えません。

大船渡火災への支援

先月、岩手県大船渡市で大規模な火災が発生したため掛川市でもふるさと納税を通じた支援を行いました。私はこの地域の震災復興にもかつて携わり、自然災害から市民の命を守ることの重要性を改めて痛感しました。

これ以外にも、高校生までの医療費完全無償化や、「たまりな」の大型室内遊び場「みろっこ」の整備など、さまざまな政策に取り組んでまいりました。今後、市民のみなさまの声をしっかりと受け止め、安全・安心で住みやすい掛川市の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

オーガニックなまちをつくらう



Vol.7

④オーガニックブレッジ推進協議会
事務局(☎21・1216)

掛川バイパス千羽インターの北側の工業団地はエコポリスと呼ばれていて、生態系を守り自然との調和を目指しているのが名前の由来です。

工業団地を造成するときに西側に農地が整備され、農薬や化学肥料、除草剤を使わない有機的な農業が営まれていて、「光陽の里」と呼ばれています。

もともと有志の市民グループが運営していて、日本で一番広い有機的市民農園と言われていました。会員の高齢化によりグループが解散して、3年前に有機野菜の生産直売をしている、しあわせ野菜畑が運営を引き継ぎました。

市民農園の中でも有機農業に限定した市民農園はほとんど見当たりません。コロナ明けの頃から、自分で食べる野菜を自分で作りたい、できたら農薬を使用しない有機野菜を育てたい、そんな場所を貸してほしいという問い合わせが増えました。そこで、市民農園の

区画を40区画から60区画に増やしました。いままでの広さは250㎡(約75坪)でしたが、初心者には広すぎるという声もあったので100㎡(約30坪)の区画も用意しました。有機野菜作りにチャレンジしたいという方は、ぜひお問い合わせください。

また、野菜を作ってみたいけど、作り方が分からないという方を対象とした「サポート付き市民農園」と、中学校部活動の地域展開に向けた「かけがわ農業クラブ」の構想もあります。野菜の作り方を教わりながら何種類かの有機野菜を育てたり、有機農業者や市民農園の人たちと交流したりすることを想定しています。「サポート付き市民農園」は再開、「かけがわ農業クラブ」は今秋か1年後の発足を目指しています。運営に参加していただける方、支援していただける方、関心のある方はお声掛けください。



▲野菜作りを教えるサポート付き市民農園の様子

しあわせ野菜畑代表 大角昌巳

